

平成21年観光客動態調査の結果について

平成21年（1月～12月）における本県の観光客は24,332千人で、前年に比べ182千人の減少（対前年比 0.7%）となった。

長引く景気低迷に加え、豪雨災害や夏季の天候不順の影響を受け、本県観光を取り巻く環境は厳しい状況にあったが、地域イベントの充実や高速道路のETC割引効果による増加もみられ、年間を通じては前年並みとなった。

市町別観光客の動向（3ページ参照）

- ・市町別では、8市町の観光客が増加し、12市町の観光客は減少した。

〔主な増加市町〕

（単位：千人、%）

市 町	増加	対前年比	主 な 要 因
周 南 市	219	+21.7	道の駅（実証店舗）のオープンによる増加
岩 国 市	102	+ 3.1	ETC割引等による錦帯橋周辺施設の増加
美 祢 市	97	+ 6.8	秋芳洞・秋吉台、サファリランドにおけるイベント効果

〔主な減少市町〕

（単位：千人、%）

市 町	減少	対前年比	主 な 要 因
萩 市	209	8.7	海水浴時期と紅葉時期の天候不順による減少
下 関 市	110	1.8	天候不順による夏場のリゾート客の減少、施設外修繕に伴う休館
山 口 市	75	2.2	豪雨災害による減少

県外・県内別観光客の動向（4ページ参照）

- ・県外客は11,673千人で、前年に比べ35千人の減少となった。
地域別では、四国、近畿、北海道・東北、その他からの観光客は増加したが、中国、九州・沖縄、中部、関東からの観光客は減少した。
- ・県内客は12,659千人で、前年に比べ147千人の減少となった。夏季の天候不順によるイベントの中止等の影響が大きかった。

日帰り・宿泊別観光客の動向（4ページ参照）

- ・日帰り客は21,156千人で、前年に比べ116千人の増加となった。
- ・宿泊客は3,176千人で、前年に比べ298千人の減少となった。
ETC割引による観光客増加の効果が、宿泊客の増加には、十分につながっていないとの結果となった。

詳細は「平成21年山口県観光客動態調査結果資料」（3～7ページ）のとおり

【山口県における過去10年間の観光客数】

(単位：千人、%)

年	観光客数	前年対比	特記事項
12	21,231	100.9	角島大橋開通、秋吉台エコミュージアムオープン、好天候
13	25,504 (22,990)	120.1 (108.3)	山口きらら博の開催、大型観光キャンペーン実施(7月~9月)、「海響館」のオープン
14	22,862	89.6 (99.4)	首都圏・九州観光キャンペーン開始、錦帯橋の架け替え、冠山総合公園オープン、ダブルトラック化
15	22,849	99.9	大河ドラマ「武蔵」の放映、錦帯橋の架け替え、金子みすゞ記念館オープン、のぞみ停車
16	23,258	101.8	錦帯橋の架け替え完了、秋の行楽シーズン時の悪天候
17	23,828	102.4	大河ドラマ「義経」の放映、台風14号による災害
18	25,304 (23,850)	106.2 (100.1)	国民文化祭開催、やまぐちフラワーランドオープン、美祿サーキット閉鎖
19	24,353	96.2 (102.1)	星野哲郎記念館開館、体験型観光施設集客数の増加
20	24,514	100.7	大型観光キャンペーン実施(7月~9月)、燃油高・景気低迷
21	24,332	99.3	高速道路ETC割引、秋の大型連休、豪雨災害・夏季天候不順、景気低迷

注) 記載数値については、四捨五入のため計数が一致しない場合がある。
 平成13年及び18年の()は山口きらら博、国民文化祭来場者をそれぞれ除いた数値。

